ニュース　Ｎｏ．２８　２０２３年１１月１０日　発行

伴侶を亡くした人々の会

# 腑抜けNo会

〒６０１−８４４１京都市南区西九条南田町３８−８　富田秀信気付
ＴＥＬ０９０−３６７１−４５４３　ＦＡＸ０７５−６９１−９４６５

## 近江八幡はやっぱりヴォーリスの町

（まさに「百聞は一見に如かず」）

企画催行前の２６号ニュースで、ウイリアム・メレル・ヴォーリスは、教育者、宣教師、建築家、実業家と称しましたが、やっぱりの感を強くした１日でした。10 月 28 日、11 人の参加で現地ガイドさんの案内の下、近江八幡「ヴォーリスの世界探訪」に行ってきました。

今から 118 年前の 1905 年に英語教師として近江八幡に赴任したヴォーリス。そこから上述の、今で言うマルチの活動。京都の同志社大学、YMCA 東華菜館始め、日本全国に広がる学園・教会群などの建築物、更に韓国の最古の女子大学・梨花女子大も彼の総指揮の作品、当時不治の病と言われた結核治療病院、メンソレータムの製造販売、近江兄弟社学園の建設と、彼の「建物と内心の風格」を同時に思いやる姿はこの地からスタートしました。その端緒は内村鑑三、新島襄などとの交流が示しています。

これらの模様を展示したヴォーリス記念館は、当時ヴォーリス夫妻の住居でもあり、ピアノなどの調度品がそのまま。特に我々参加者が感銘したのは約 20 分のヴォーリス軌跡の DVD。展示物と映像で理解が一気に進みました。次のハイド館は当時としては先駆的なスチーム暖房と、時代のさきがけを感じました。

近江八幡と日本をこよなく愛した彼は日本に帰化し、夫人の姓と遠いアメリカからやってきてこの地に留まる覚悟で、日本名を一柳米来留（ひとつやなぎめれる）と改名したのです